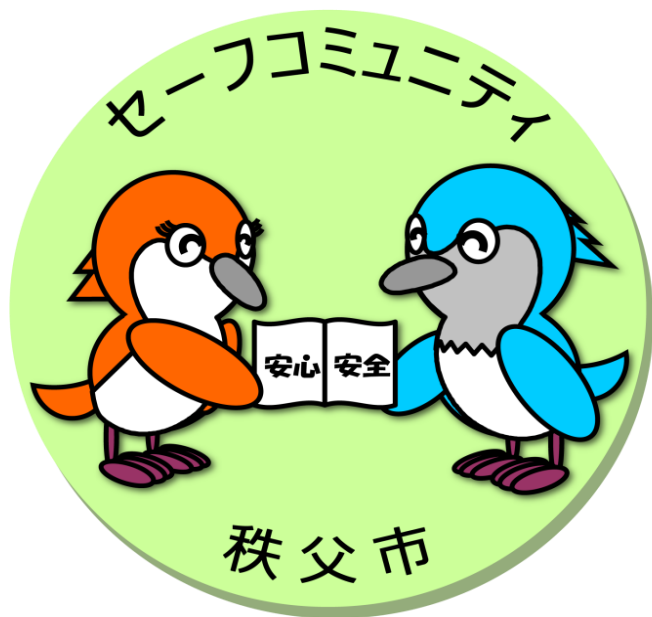


秩父市セーフコミュニティ 自殺予防対策委員会活動報告



ワークショップの様子

自殺予防対策委員会設置の背景①

なぜ自殺対策の組織が編成されたか？

それは、新聞記事から始まった…

2008年(平成20年)9月20日

朝日新聞の報道

・自殺傾向「北高南低」

・秩父保健所管内

(秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町)

SMR : 1.26

(埼玉県平均の1.26倍)



2011年～

「秩父地域自殺予防対策連絡会」
を設置

朝日新聞 2008年9月20日

自殺傾向「北高南低」

県、保健所別に初分析

秩父・小鹿野、平均の1.26倍

07年の県内の自殺者数は過去最高を記録するなど、東北地域の住民の自殺指数(一定期間の自殺の平均を示す標準化死亡率)が県内で全くとる上回ることが、県の分析で分かった。県は、地域ごとの自殺傾向を明らかにするために、県は「地域差が大きい理由を調査中だが、各市町村に現状を把握し、適切な対策にむかっている」としている。

県によると、人口10万人あたり、最も高かった。2007年の自殺者の県平均は1.0位以下も東松山、加須保健所を、県内保健所別で調べてみると、秩父市や小鹿野町など、それぞれ1.26、1.44と県平均を大きく上るとを管轄する秩父保健所が1.44と最も高かった。

一方、県南の保健所管内は、おおむね自殺指数が低かった。02、03年は朝霞が0.91、川越市(0.8)、所沢(0.8)、川口市(0.7)、所沢(0.7)で最低。以下、さいたま市(0.7)、川越市(0.7)、川口市(0.7)で最低。川口市(0.7)、川口市(0.7)で最低。

県内の自殺者 厚生労働省の人口動態統計によると、県内の07年の自殺者は、1583人(速報値)と過去最高を記録した。全国でも4番目に多かった。07年までは最高でも1100人台だったが、08年に急増し1554人に。以降毎年、1400人以上が自殺している。ただ、人口10万人当たりの自殺者数を示す自殺率(07年)は22.6で全国34位と低い。

自殺者の半数以上が働き盛りの30～50歳代で、20、30歳代では自殺が死因の1位だった。うつ病などの病気を理由にした自殺が全体の約6割を占めている。

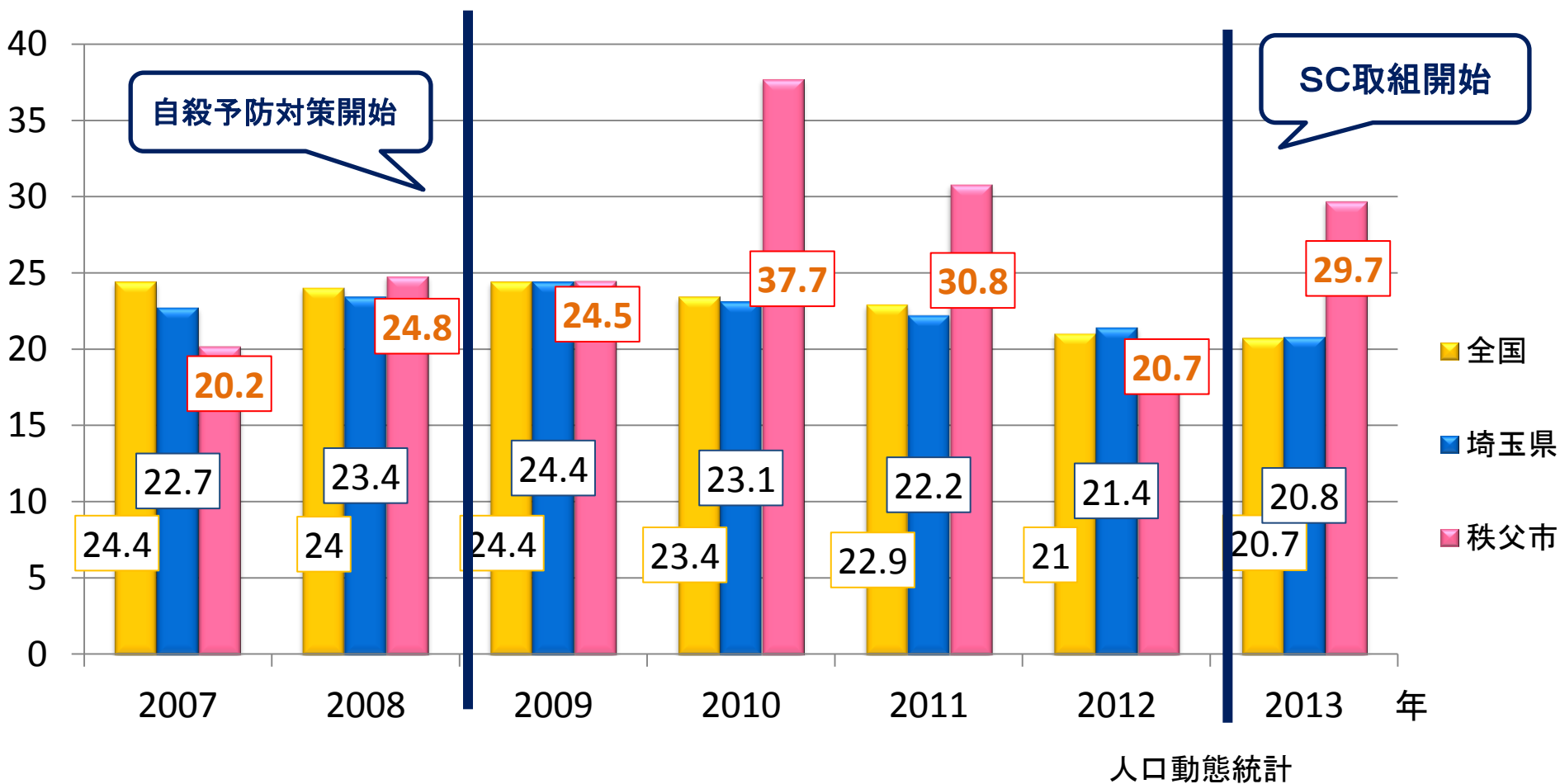
〈県内の相談窓口〉
●県こころの電話(048・723・1447) ＊平日午前9時～午後5時。センターのホームページ(<http://www.pref.saitama.lg.jp/A03/BE02/top.htm>)からメールでの相談も受け付けている。
●埼玉いのちの電話(048・645・4343) ＊年中無休24時間対応/こどもライン(048・640・6400) ＊18歳以下、金・土午後3時～同9時30分

県内では、自殺対策の取り組みは全国的に遅れているのが現状。自殺は昔ながらの自殺対策では対応しきれない。自殺対策に乗り出しているが、埼玉は遅れている。自殺対策に乗り出しているが、埼玉は遅れている。自殺対策に乗り出しているが、埼玉は遅れている。

県は10月にも、09年町村の自殺対策担当者を集め、精神科医らに講師に自殺の現状と対策の構築などを講義する予定だ。

自殺予防対策委員会設置の背景②

自殺死亡率(人口10万対)の推移(2007-2013年)



2010年に自殺死亡率が増加した後、減少傾向であったが、2013年に再び増加に転じた

セーフコミュニティ自殺予防対策委員会構成

(委員:秩父地域自殺予防対策連絡会の中から選任)



区分	構成団体名称等
医療	秩父郡市医師会
	秩父郡市歯科医師会
	秩父郡市薬剤師会
	秩父中央病院（精神科）
商工	秩父商工会議所
	西秩父商工会
	荒川商工会
社協	秩父市社会福祉協議会
福祉組織等	秩父市民生委員・児童委員協議会
	高齢者相談支援センター （秩父市在宅介護支援センター）
	秩父市障害者団体連絡協議会
警察	秩父警察署
	小鹿野警察署
消防	秩父消防本部
司法	埼玉司法書士会秩父支部
行政機関	秩父公共職業安定所
	秩父保健所
	秩父市保健センター

セーフコミュニティ自殺予防対策委員会の経過①

回数	開催日	主な会議内容
第1回	2013年3月11日	セーフコミュニティの概要説明
第2回	2013年9月18日	セーフコミュニティの状況説明
第3回	2013年11月8日	セーフコミュニティのスケジュール、事前審査・本審査について説明
第4回	2014年3月14日	重要課題と取り組みについて確認
第5回	2014年4月24日	現地指導リハーサル
プレ審査	2014年5月28日	現地指導(活動報告、質疑応答)
第6回	2014年7月11日	現地指導の講評について 役員選出と事業検討(自殺予防対策委員会)
第7回	2014年8月11日	現地指導の講評について白石先生から説明 (合同対策委員会)
第8回	2014年9月5日	今年度の自殺予防事業について 成果指標の検討
第9回	2014年10月24日	自殺予防啓発の看板の設置場所について ワークショップ(成果指標を導くために)

セーフコミュニティ自殺予防対策委員会の経過②

回数	開催日	主な会議内容
正副委員長 会議	2014年11月26日	各対策委員会の進捗状況の報告、情報共有
第10回	2015年1月30日	課題と取り組み、成果指標の検討について
第11回	2015年2月6日	取り組みおよび成果指標の最終検討
第12回	2015年3月13日	取り組みおよび成果指標の最終確認
第13回	2015年4月24日	本審査に向け白石先生より助言
第14回	2015年5月28日	活動報告書について、取り組みの経過報告
第15回	2015年6月12日	活動報告書について、発表資料確認
第16回	2015年6月15日	本審査リハーサル

※アンケート調査実施 864名実施

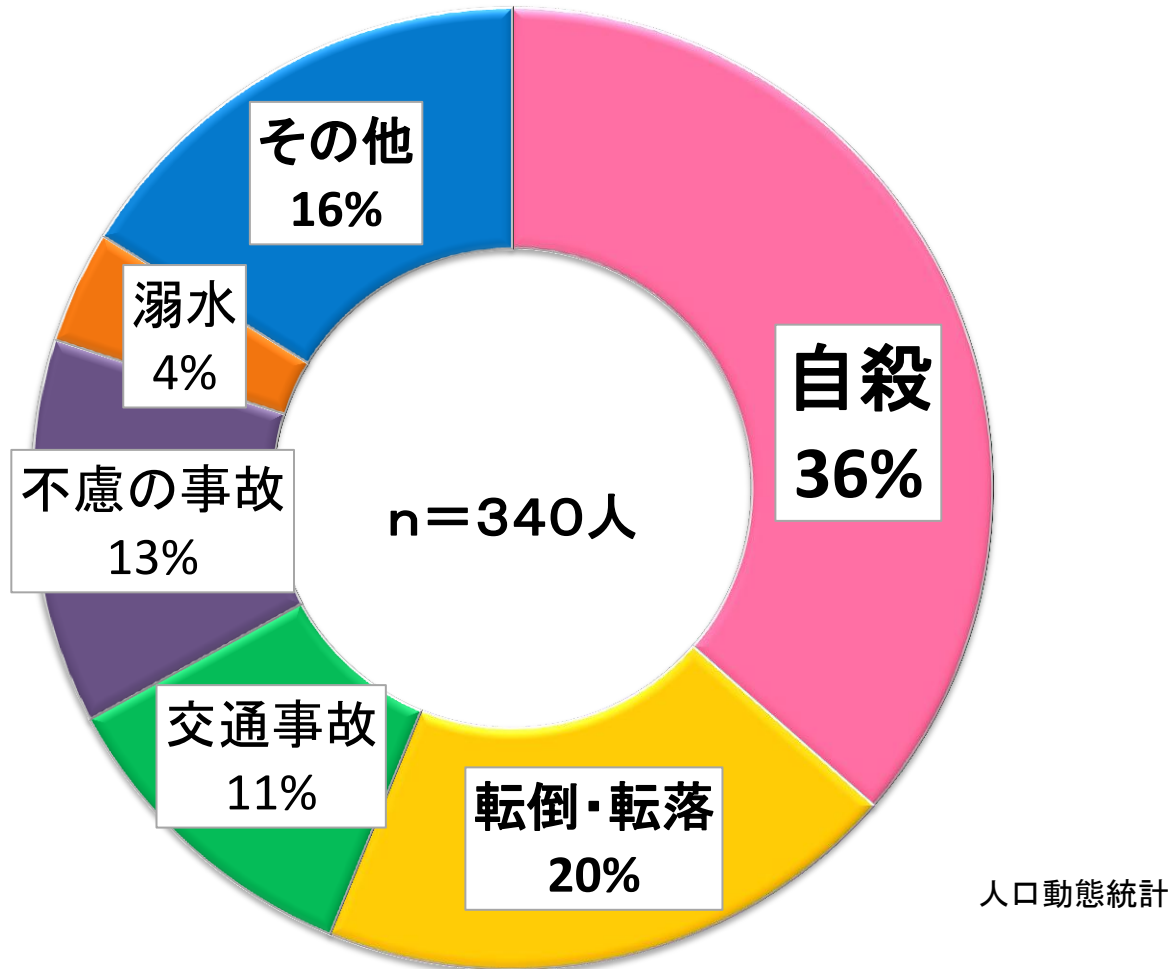
内容：「自殺予防対策として大切だと思うことや充実してもらいたいこと」

実施日：2012年11月10日、2013年11月24日、2014年11月8日

自殺の地域診断 データから見た客観的な危険 1

図1

外因による死亡の状況（秩父市・2006－2012年）



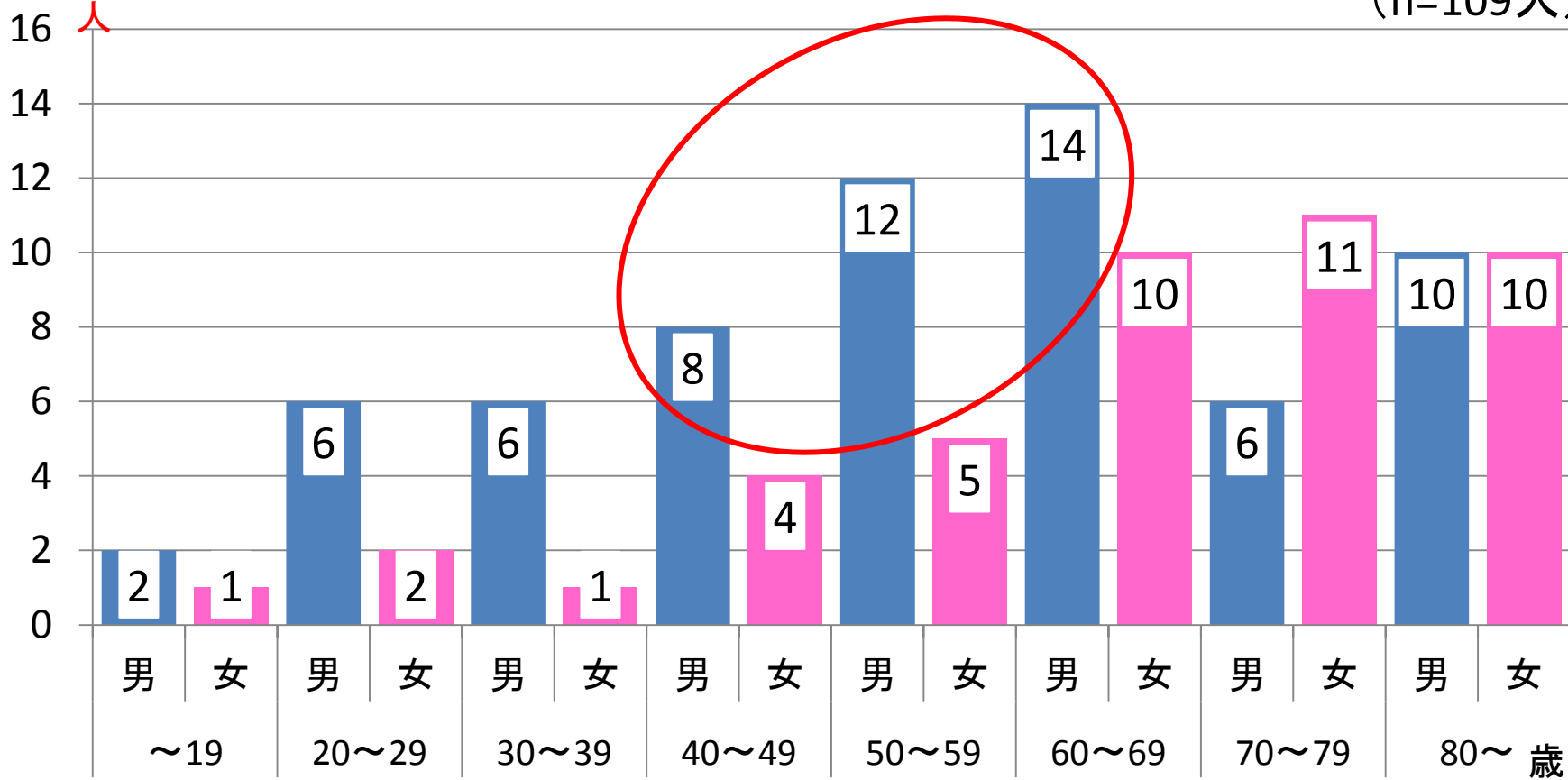
自殺による外因死が最も多い
次いで、転倒・転落、その他と続く

自殺の地域診断 データから見た客観的な危険 2

図2

年代別・男女別自殺者数（秩父市・2009-2014年）

(n=109人)



内閣府：自殺の基礎資料(自殺日・住居地ベース)

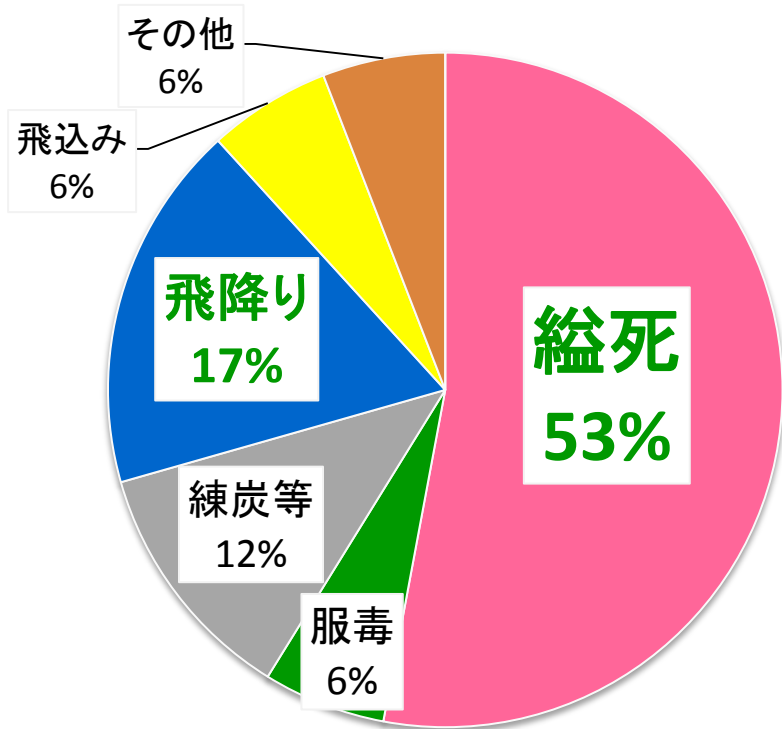
40~60歳代の男性に自殺者が多い
60歳以上の女性の自殺も多い

自殺の地域診断 データから見た客観的な危険 3

自殺手段の割合 (2009-2014年)

図3-1

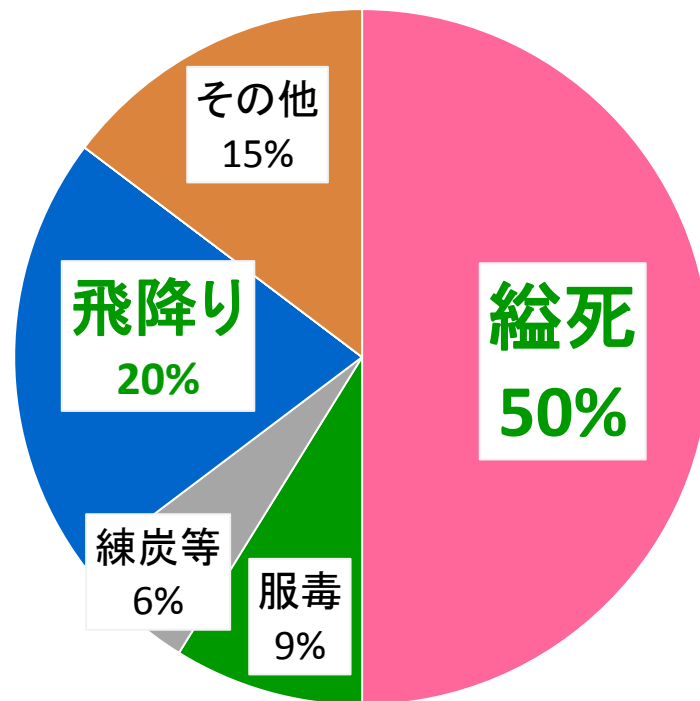
(n=109人) < 秩父市 >



内閣府: 自殺の基礎資料(自殺日・住居地)

図3-2

(n=34人) < 40~60歳代男性 >



内閣府自殺統計原票データ特別集計
(秩父市自殺日・居住日ベース)

秩父市、40~60歳代共に縊死が半数を占め、飛降りが次ぐ。

自殺の地域診断 データから見た客観的な危険 4

自殺場所の割合（2009－2014年）

図4-1

< 埼玉県 >

(n=9,587人)

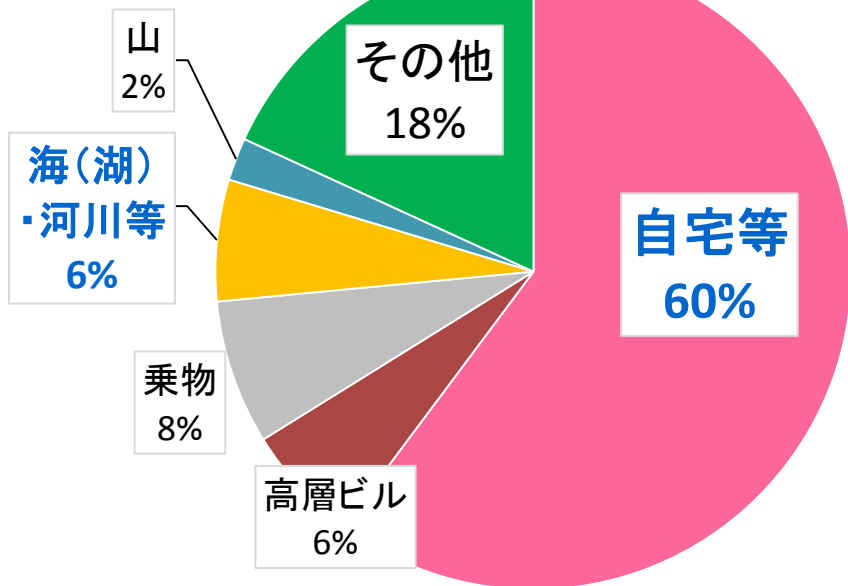
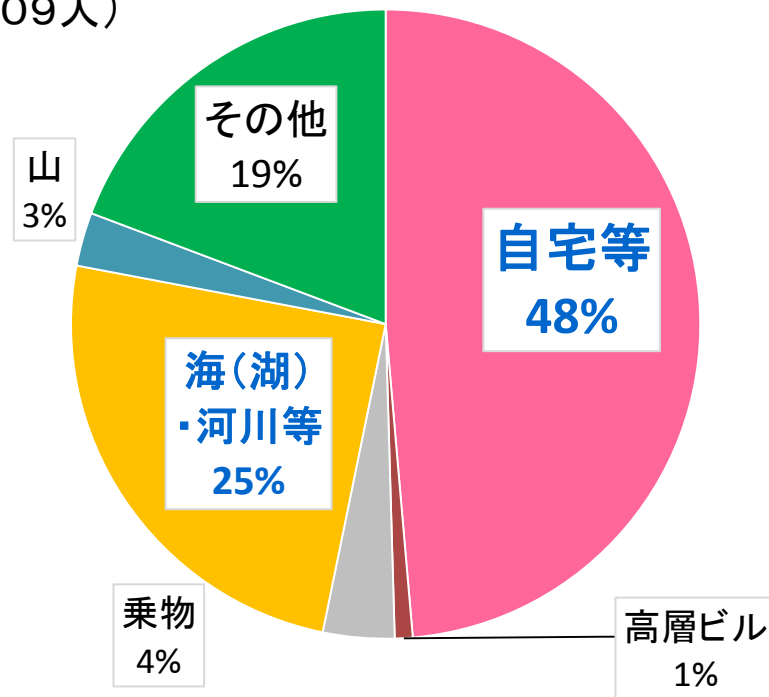


図4-2

< 秩父市 >

(n=109人)



内閣府自殺の基礎資料

自宅等が最も多い
秩父市は、海（湖）・河川等が第2位

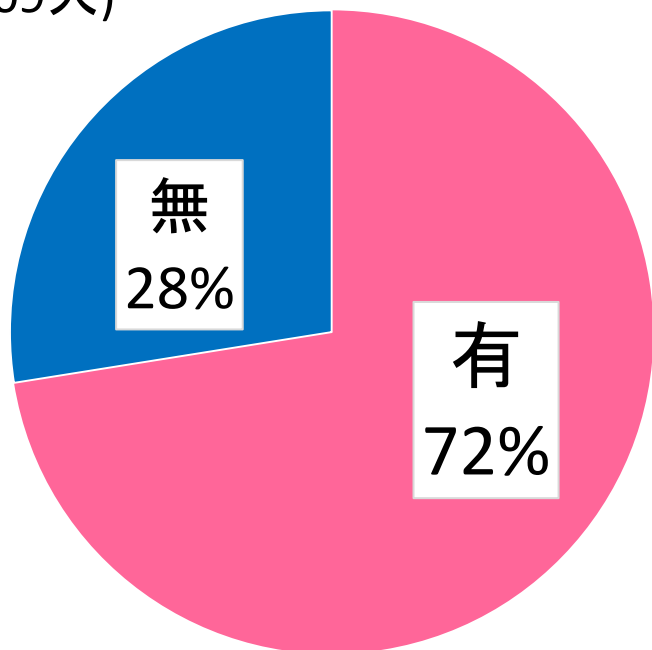
自殺の地域診断 データから見た客観的な危険 5

同居人有無の割合（2009-2014年）

図5-1

< 秩父市 >

(n=109人)

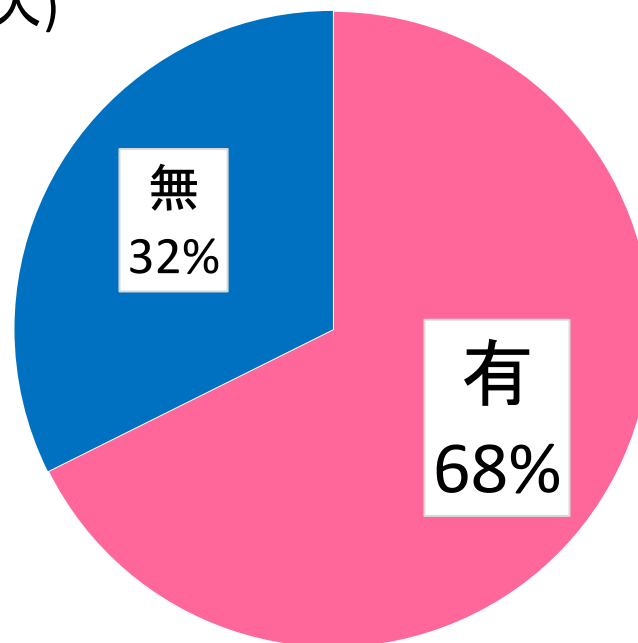


内閣府自殺の基礎資料(自殺日・住居地ベース)

図5-2

< 40~60歳代男性 >

(n=34人)



内閣府自殺統計原票データ特別集計
(秩父市自殺日・居住日ベース)

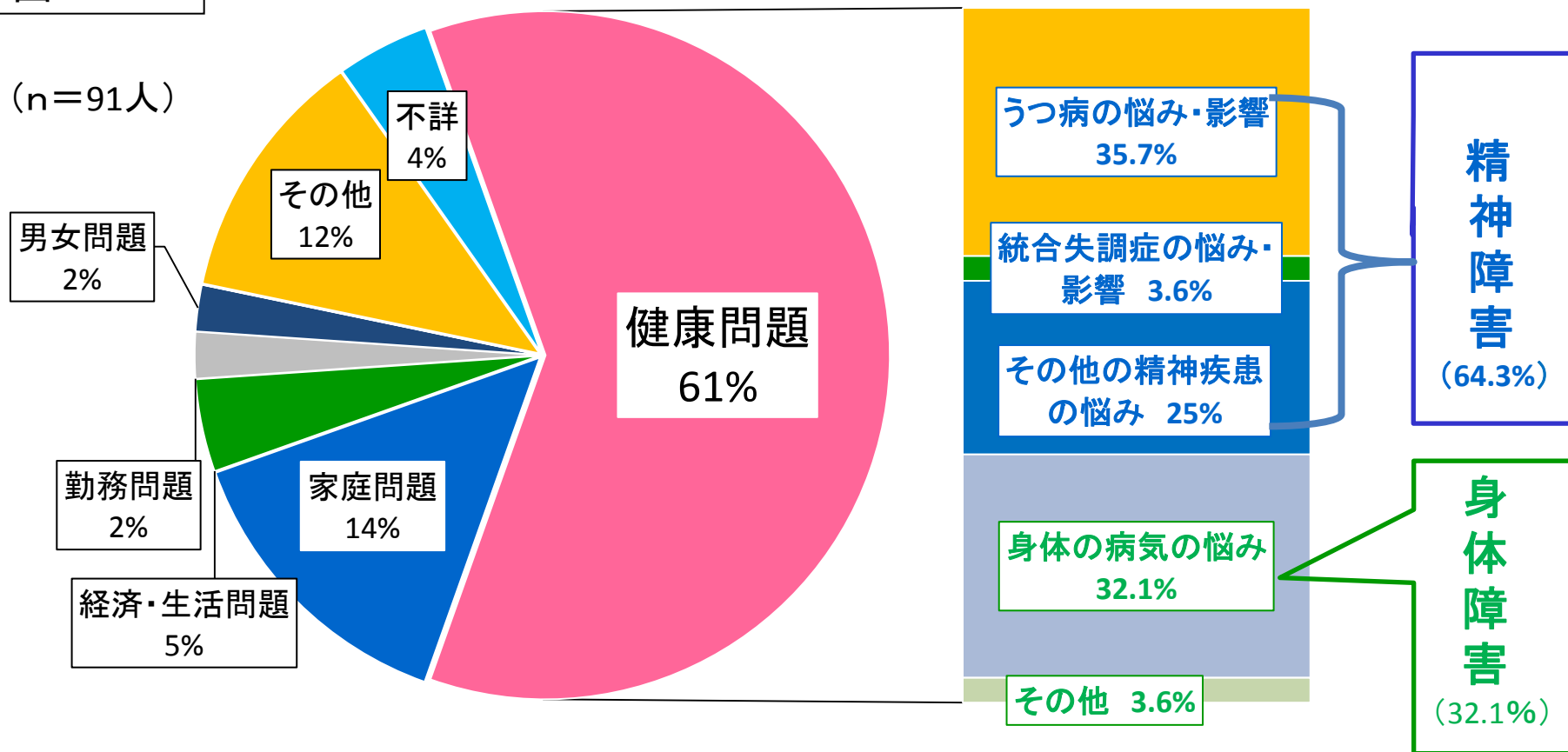
同居人有が約7割を占める

自殺の地域診断 データから見た客観的な危険 6-1

自殺原因の割合（秩父市・2010-2013年）

図 6-1

(n=91人)



内閣府：自殺の基礎資料（発見日・住居地ベース）

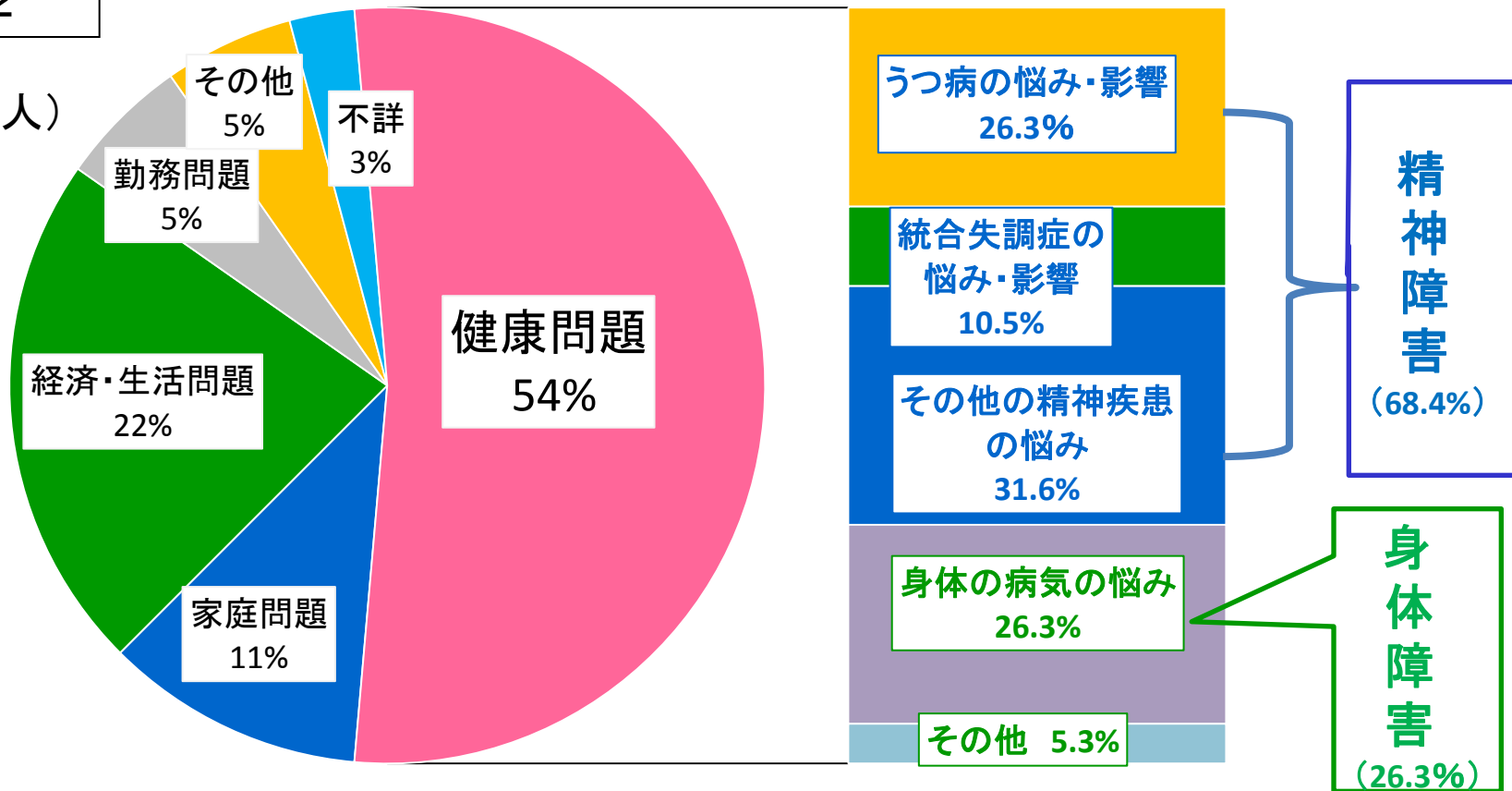
※原因の複数選択を含むため自殺者の総数と一致しない

- ・ 健康問題が第1位、家庭問題が第2位
- ・ 健康問題の内訳は、精神障害が6割

自殺原因割合（40～60歳代男性・2009～2014年）

図6-2

(n=36人)



内閣府自殺統計原票データ特別集計(秩父市自殺日・居住地ベース)

※原因の複数選択を含むため自殺者の総数と一致しない

- ・健康問題が第1位、経済・生活問題が第2位
- ・健康問題の内訳は、精神障害が7割

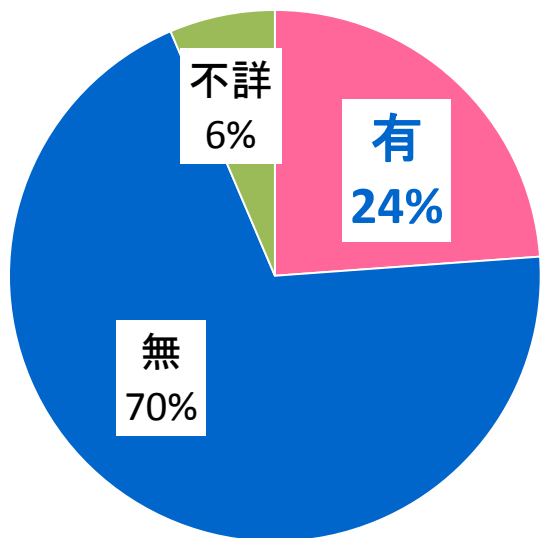
自殺の地域診断

データから見た客観的な危険7

図7-1

自殺未遂歴の有無
(秩父市・2009-2014年)

(n=109人)

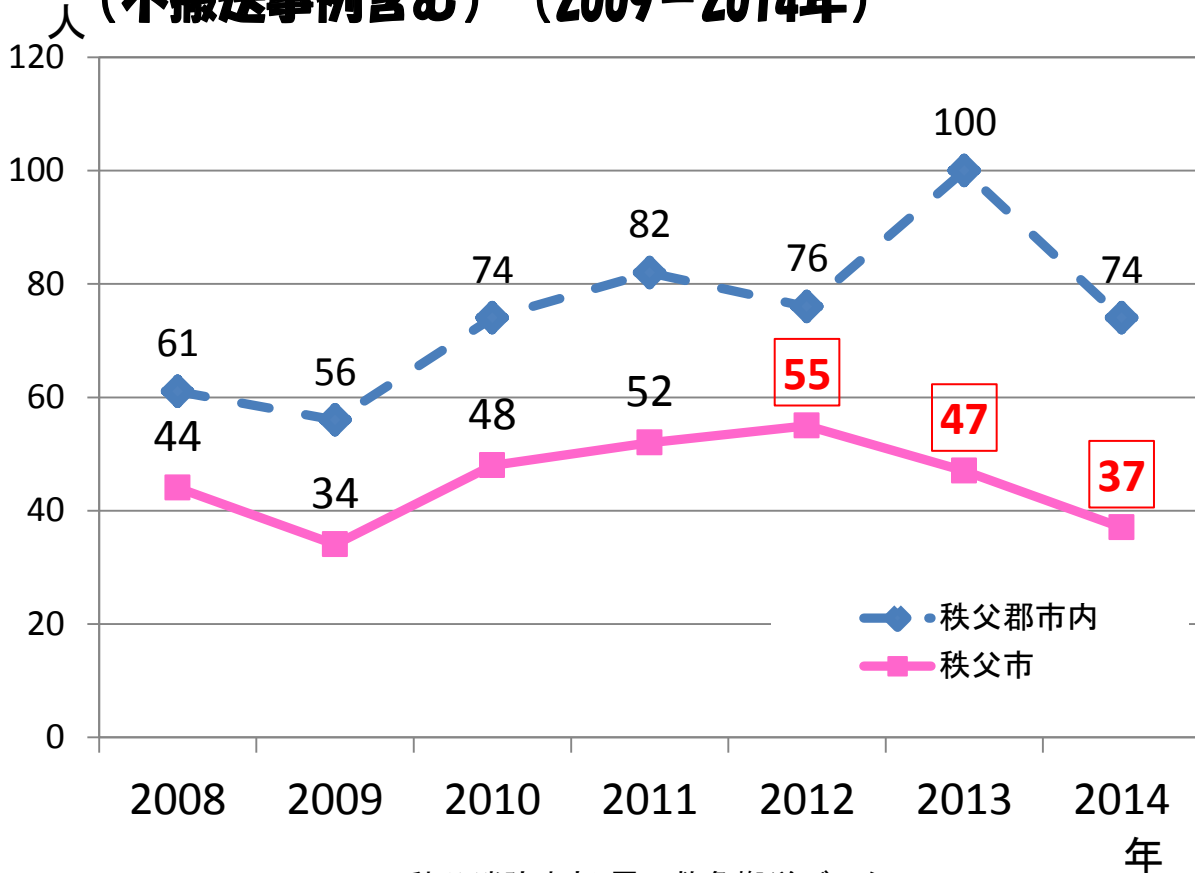


内閣府:自殺の基礎資料

自殺未遂歴有が2割を超える

図7-2

秩父郡市内と秩父市の自殺未遂での救急搬送件数推移
(不搬送事例含む) (2009-2014年)



秩父消防本部(署) 救急搬送データ

2012年をピークに減少傾向

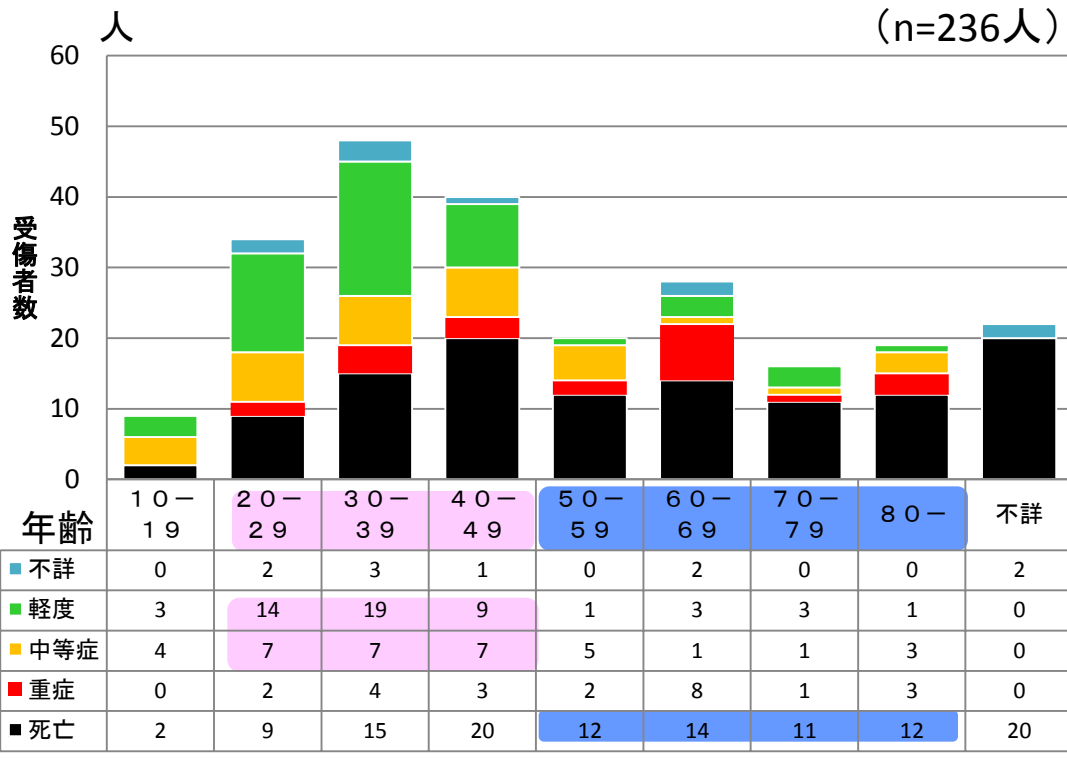
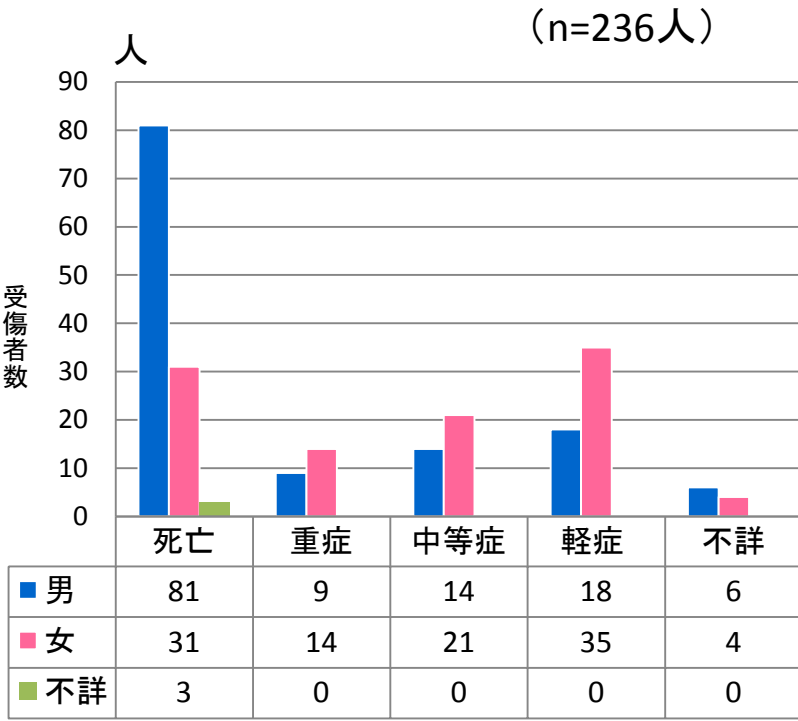
自殺の地域診断 データから見た客観的な危険 8

図 8 - 1

図 8 - 2

救急搬送事例の性別・程度別発生状況うち自損行為分
(不搬送事例含む) (秩父市・2009-2013年)

救急搬送事例の年代別発生状況うち自損行為分
(不搬送事例含む) (秩父市・2009-2013年)



秩父消防本部(署) 救急搬送データ

- ・ 男性は死亡が多い。
- ・ 女性は中等症・軽症が多い。

- ・ 20歳代～40歳代に自損行為が多く、中等症・軽症の自損が多い
- ・ 50歳代以上は重症・死亡が多い

自殺の地域診断 データから見た客観的な危険 9

図 9-1

住所地と発見地別自殺死亡率の比較
(2013年)

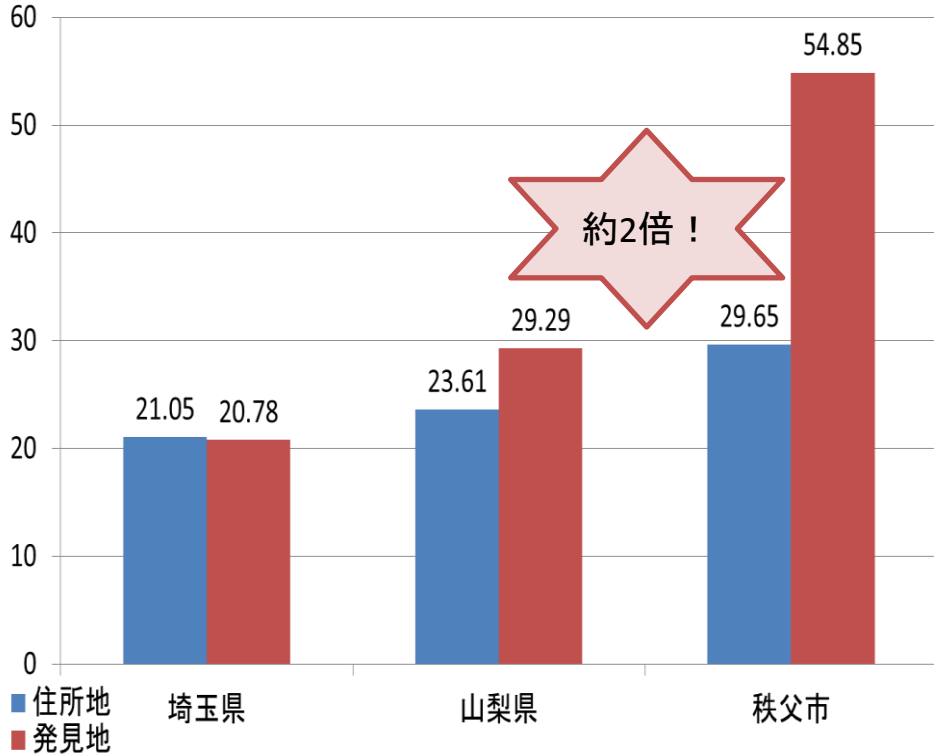
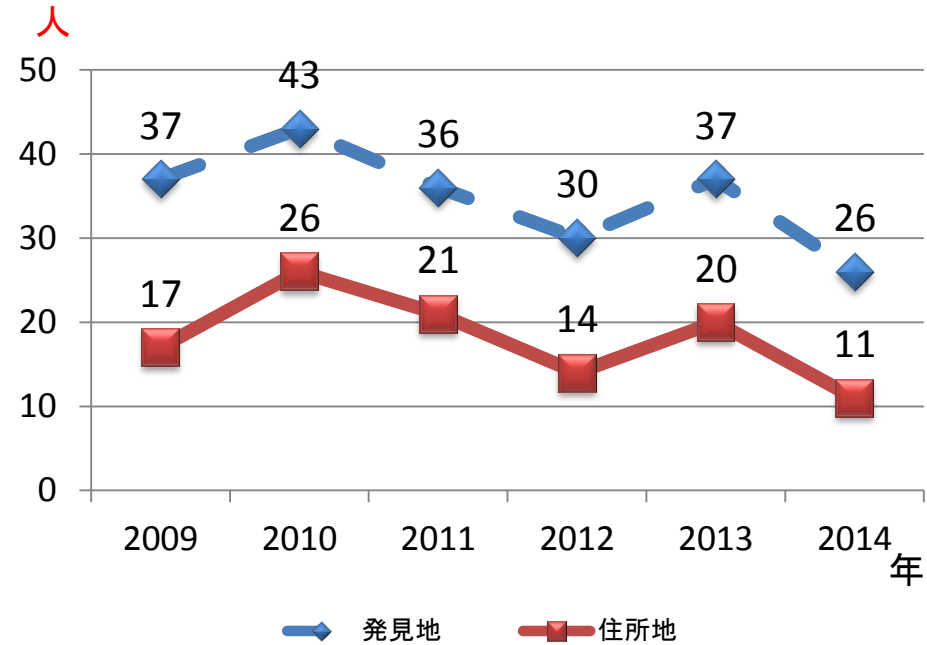


図 9-2

住所地と発見地別でみた自殺者数(秩父市)
(2009年~2014年)



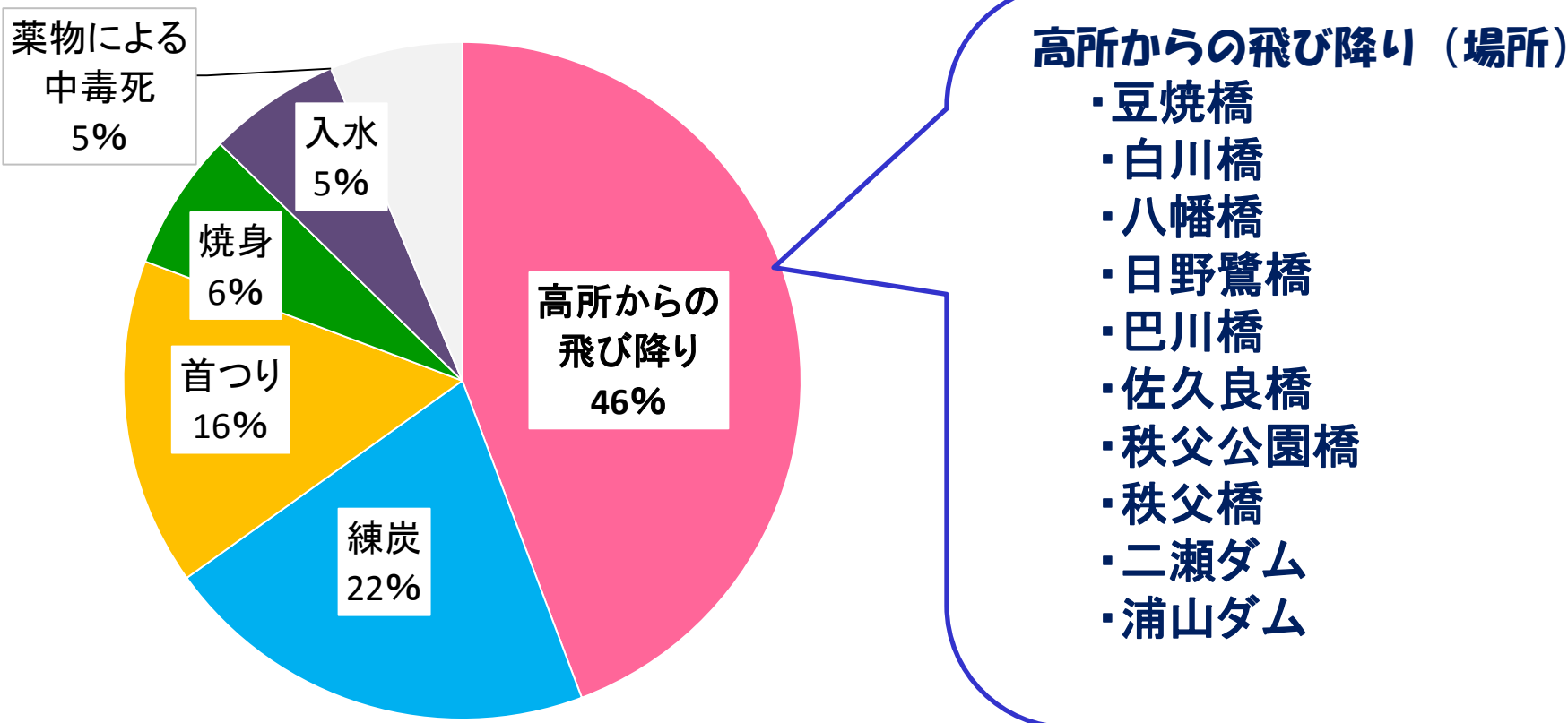
内閣府: 自殺の基礎資料

- ・ 自殺の名所がある山梨県の発見地の自殺率よりも、秩父市の方が高い
- ・ 市外から秩父に来て秩父市内で自殺する人が多い

自殺の地域診断 データから見た客観的な危険10 秩父地域外からの自殺者の現状

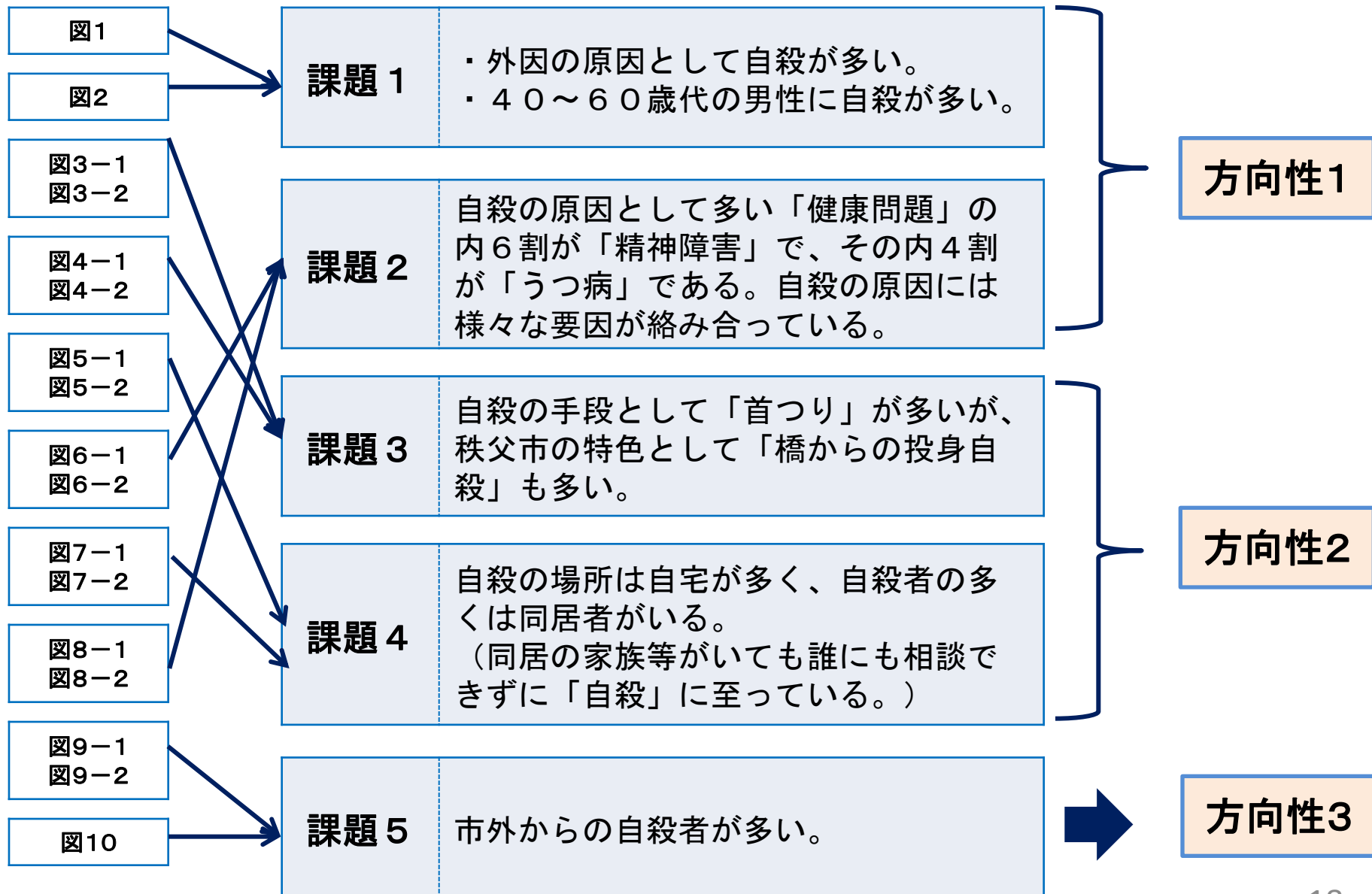
図10

(n=37人) **自殺の手段**

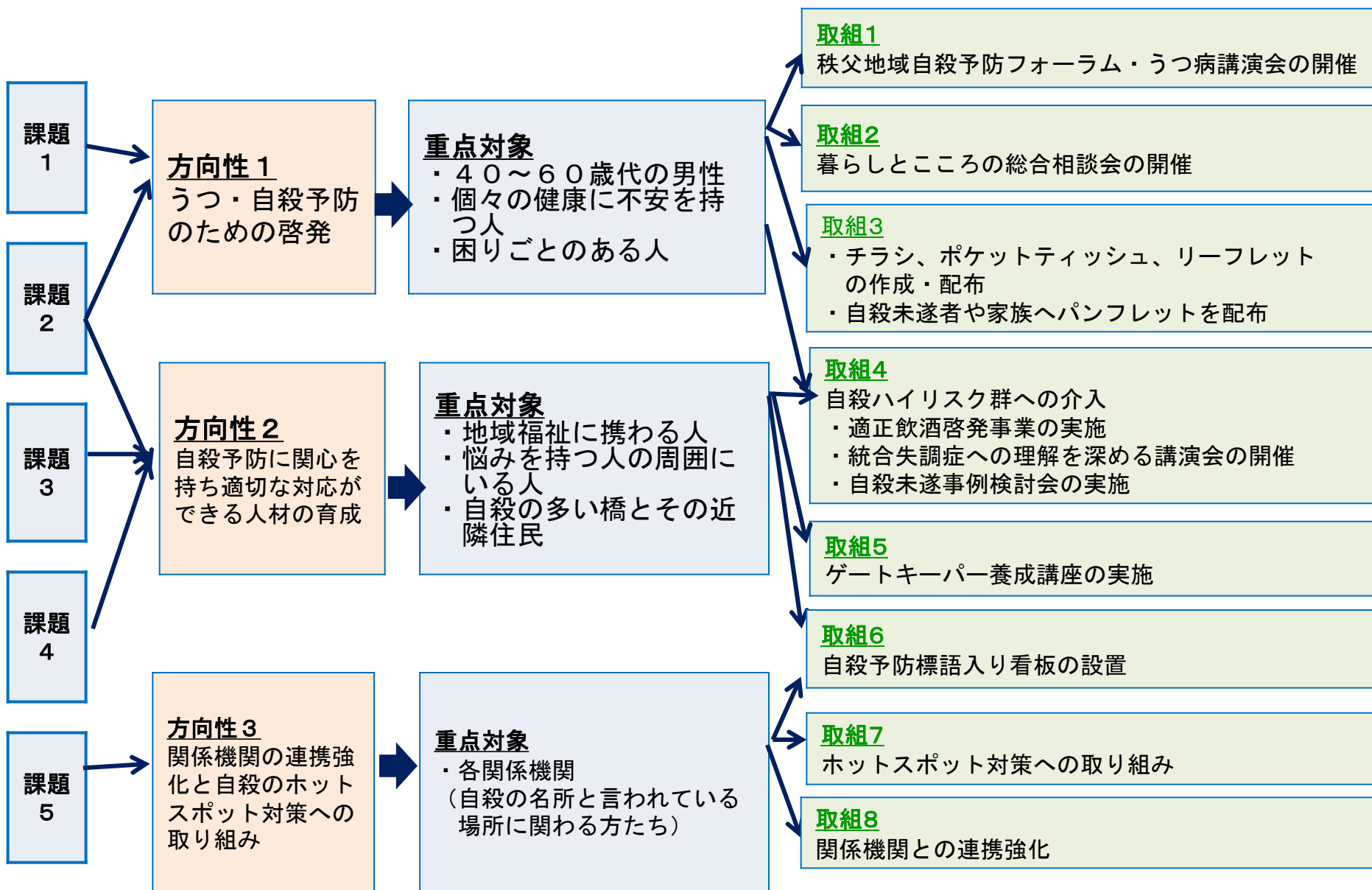


埼玉県警察統計(2013年1月～2014年11月末累計)

地域診断による課題の整理



課題・方向性・重点対象・取組の整理



自殺対策の体制

秩父市
の自殺
対策

- ・SC自殺予防対策委員会
- ・庁内自殺予防対策連携会議

地域ぐるみ
の自殺対策

- ・秩父地域自殺予防対策連絡会
(自殺予防フォーラム実行委員会)

埼玉県自殺対策
推進ガイドライン

[自殺対策の実施]

1. 実施把握
2. 普及啓発の推進
3. 相談支援の充実
4. 民間団体の活動支援
5. 遺族・自殺未遂者への支援

自殺総合対策大綱

政府が推進すべき自殺対策の指針

- ・地方公共団体をはじめ、医療機関、民間団体等と連携を図り、自殺対策を強力的に推進する

自殺対策基本法
(2006年10月)

- ・国を挙げて自殺対策を統合的に推進するため
制定

自殺予防対策活動一覧

対象者		活動内容	
市内	ハイリスク群	若年層	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康フェスティバル開催 ・秩父地域自殺予防フォーラム開催 ・40歳未満対象の啓発講演会の実施(2015年度予定)
		40～60歳	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の設置 ・適性飲酒啓発事業 ・自殺予防啓発看板
		高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の設置 ・自殺予防啓発看板設置
	市民	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートキーパー養成講座 ・心の健康フェスティバル開催 ・秩父地域自殺予防フォーラム開催 ・暮らしとこころの総合相談会の実施 ・啓発用リーフレット等の配布 	
	関係団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲートキーパー養成講座(庁内自殺予防対策連携会議) ・ホットスポット対策研修 ・自殺未遂者への対応研修 ・自殺予防対策連絡会研修会の開催 	
	市外の人	<ul style="list-style-type: none"> ・ホットスポット対策として、自殺予防啓発看板の設置 	

取組 1 秩父地域自殺予防フォーラム・うつ病講演会の開催

【概要】

一般市民を対象に、自殺予防とうつ病に対する理解を深めるとともに、自殺の問題を秩父地域全体で考え取り組んで行くことを目的に、2009年度から年1回開催している。

【関係主体】

秩父地域自殺予防対策連絡会
SC自殺予防対策委員会

【活動実績】

2012年度 **360人来場** 2013年度 **200人来場**

2014年度 **500人来場**

【SCを始めてからの変化】

2014年は、各関係機関が参加を呼び掛けた結果、参加者が倍増した。



自殺予防フォーラムの様子



精神科医・名越康文先生の講演

取組2 暮らしとこころの総合相談会の開催

【概要】

弁護士・司法書士・社会福祉士・精神保健福祉士等による、様々な困りごとを抱えた人に一同に対応するための相談会を実施。訪問・声掛けにより、周知した。

【関係主体】

民生委員、居宅介護支援事業所、秩父保健所、司法書士利
弁護士、精神保健福祉士、SC自殺予防対策委員会 他

【活動実績】

2014年12月13日(土) **6組7人来場**

相談会から、重度のうつ病の方の受診支援が始まり、入院治療につなげることができた。

【SCを始めてからの変化】

地域には様々な悩みを抱えている方がいること、また、きっかけさえあれば相談に来られることに気づくことができた。



取組 3

(その1) チラシ、ポケットティッシュ、リーフレットの作成・配布

【概要】

チラシ・ポケットティッシュ・リーフレットを作成し、保健センターまつりや埼玉県・西武鉄道と共催の自殺予防キャンペーン、保健センターでの各種保健事業等において配布した。

【関係主体】

SC自殺予防対策委員会、民生委員、秩父保健所、秩父市、西武鉄道 他

【活動実績】

保健センターまつり 年1回

西武鉄道キャンペーン 年1～2回

配布数：チラシ・ポスター 約10,500枚

(2010年～)ポケットティッシュ 約63,000個

リーフレット 等 約 3,200枚

【SCを始めてからの変化】

市報にうつ病予防の記事を掲載。今後もチラシの配布等による啓発を継続していく。



保健センターまつり



自殺予防キャンペーン



取組 3 (その 2) 自殺未遂者やその家族へパンフレットを配布

【概要】

自殺未遂者やその家族に対し、救急搬送の際や未遂者への対応の際等に、相談機関一覧を掲載したパンフレット『生きていくことがつらくなってしまったあなたへ』を配布し、再発予防を図る。

【関係主体】

秩父警察署、小鹿野警察署、秩父消防本部、秩父保健所
SC自殺予防対策委員会

【活動実績】

パンフレット配布依頼数：**250枚**

【SCを始めてからの変化】

配布依頼先に医院・病院を加えることを検討。

自殺未遂者から相談があった場合、適切な支援・機関へつなげるように努める。



取組4 自殺ハイリスク群への介入 (その1) 適正飲酒啓発事業の実施**【概要】**

「アルコール使用障害スクリーニングテスト(AUDIT)」を実施し、問題飲酒者に対して適正飲酒をすすめる講話、グループワーク、飲酒日記の記録等を行った。

【関係主体】 秩父市、埼玉県立精神保健福祉センター
SC 自殺予防対策委員会

【活動実績】 AUDITの実施 : 13会場32回

問題飲酒者 : 128名に対しお酒を減らせる健康教室(2回)

案内をする 延べ参加者: 24人

【SCを始めてからの変化】

毎年保健センターで全戸配布している健康カレンダーに、AUDITを掲載し、飲酒量の見直しを呼びかけていく。



健康教室の様子

取組 4 自殺ハイリスク群への介入 (その2) 統合失調症への理解を深める講演会の開催

【概要】

市民や患者・家族、関係者に対して、当事者からの体験談を通して、精神疾患の正しい知識の普及と希望を持ち自分らしく生きることの大切さを伝えることを目的に講演会を実施した。(秩父保健所と共催)

【関係主体】

精神科病院、秩父保健所、秩父市
SC自殺予防対策委員会

【活動実績】

2014年10月2日(木)

お笑いコンビ「松本ハウス」のトークショー
※統合失調症でも、明るく前向きに生きる

講師の体験談

314人来場



取組 4 自殺ハイリスク群への介入 (その3) 自殺未遂事例検討会の実施

【概要】

自殺未遂者への対応について、関係者の対応能力を高めることを目的に、保健所や自治体に対応した事例(10事例)を報告し、事例検討を行い、臨床心理士の助言を受けた。

【関係主体】

秩父市役所内自殺予防対策連携会議、
高齢者相談支援センター、秩父保健所、各町保健師、
秩父市保健センター、SC自殺予防対策委員会

【活動実績】

2015年3月17日 **31人参加**

【SCを始めてからの変化】

今まで難しいと考えていた自殺未遂者への支援の「初めの第一歩」を踏み出すことができた。



事例検討会の様子。研鑽に努める

取組5 ゲートキーパー養成講座の実施 ①

【概要】

民生委員・児童委員、健康推進員、理容師、美容師、保健センター臨時職員、高齢者相談支援センター職員、庁内自殺予防対策連携会議のメンバー等を対象に養成講座を実施。

【関係主体】

SC自殺予防対策委員会、民生委員、理美容組合、
高齢者相談支援センター、庁内自殺予防対策連携会議、保健センター、秩父保健所



理容師対象のゲートキーパー養成講座



臨床心理士の講話

取組5 ゲートキーパー養成講座の実施 ②

【活動実績】

2012年度から13回実施し、451人養成。

【アンケート】

※理容組合に対して養成講習1年後のアンケート実施。

・登録サロンのステッカーを貼っている人

52人中34人

・声掛け・傾聴・見守りの経験者 14人

【SCを始めてからの変化】

養成したゲートキーパーに対しての研修会を開催することになった。



保健師による対応の寸劇



ゲートキーパー宣言
登録サロンのステッカー

方向性 2

自殺予防に関心を持ち 適切な対応ができる人材の育成

継続
改善

取組6 自殺予防標語入り看板の設置

【概要】

地域住民が関心を持つことで、橋からの投身自殺を防ぐため、過去に自殺があり危険と思われる橋への「自殺予防のための標語を利用した看板」を設置した。

【関係主体】

秩父地域自殺予防対策連絡会、秩父保健所、秩父県土事務所、秩父市SC自殺予防対策委員会

【活動実績】

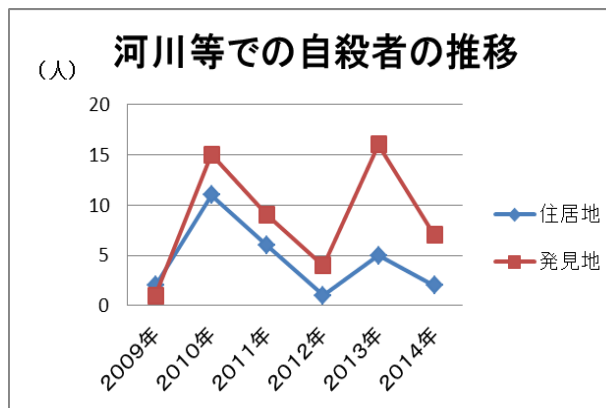
2012年度から設置開始

市内8か所の橋に17枚設置

※設置により、河川等での自殺が
ピーク時より半減した。

【SCを始めてからの変化】

移動式立て看板を作成し、ホット
スポットやイベント等で有効活用している。



内閣府
地域における自殺の基礎資料



秩父橋

取組 7 ホットスポット対策への取り組み

【概要】

「自殺のホットスポット対策」の研修会を実施し、山梨県の富士樹海地域の取り組みの先行事例から学んだ。

【関係主体】

保健所、警察署、消防署、鉄道、ダム管理所、
SC自殺予防対策委員会、庁内自殺対策連携会議

【活動実績】

2014年12月17日 **45人参加**

『富士樹海地区の取り組み』、『地域外からの自殺企図者の実態』

【SCを始めてからの変化】

秩父市外からの自殺者が多いことがわかり、ホットスポット対策に取り組むことになった。



取組 8 関係機関との連携強化

【概要】

秩父地域自殺予防対策連絡会を2011年度に設置。
秩父地域の自殺対策の推進を図るため、連絡会を
設置した。

【関係主体】

医師会、精神科病院、公共職業安定所、教育委員会、
社会福祉協議会、警察、消防、民生委員、
保健所等 30団体

【活動実績】

毎年1～2回の研修会・会議を実施情報を共有。
自殺予防フォーラムの実行員会として、各団体が協働

【今後の予定】

各々の団体が、自殺予防対策について取り組み、地域での自殺対策の推進が図れるよう、さらに連携を強化していく。



会議の議論の様子

取組の成果指標

取組		活動指標	短期指標	中期指標	長期指標
1	自殺予防フォーラムの開催 うつ病講演会の開催	講演会回数 参加者数	うつ病・自殺予防についての知識を持つ人が増える。	うつ病・自殺予防に対する意識・行動が変わる (アンケート)	自殺者の減少 (自殺による 死亡率の低下)
2	暮らしとこころの総合相談会の開催	暮らしとこころの総合相談会開催回数 来所者数	うつ病、多重債務を抱えた人が相談会場に来る。(問題を抱えた人に周知ができる)	相談者を専門家につないだ件数	
3	・チラシ、ポケットティッシュ、リーフレットの作成・配布 ・自殺未遂者やその家族へパンフレットを配布	①チラシ、ポケットティッシュ、リーフレットの作成数 ②関係機関へのリーフレット配布依頼枚数	①チラシ、ポケットティッシュ、リーフレットの配布数及び街頭キャンペーンの実施回数 ②自殺未遂者等への配布数	相談来所者数 対応件数	
4	自殺ハイリスク群への介入 【その1】適性飲酒啓発事業の実施 【その2】自殺未遂関連事例検討会の実施 【その3】統合失調症への理解を深める講演会の開催	各事業の実施回数と参加者数	【その1】飲酒習慣スクリーニングテストの参加者数 【その2】自殺未遂者事例検討数 【その3】講演会参加者数	【その1】節酒プログラム参加者数 【その2】自殺未遂者への対応件数 【その3】統合失調症への理解が深まる。	

取組の成果指標

取組		活動指標	短期指標	中期指標	長期指標
5	ゲートキーパー養成講座の実施	ゲートキーパー養成講座実施回数	ゲートキーパー養成講座の参加者数	ゲートキーパー養成講座参加者数の意識向上と声かけ件数	自殺者の減少 (自殺による死亡率の低下)
6	自殺予防標語入り橋梁看板の設置	自殺予防標語入り啓発看板の設置	自殺のあった橋への設置枚数	関心を持つ地域住民が増える(アンケート)	
7	自殺のホットスポット対策の取り組み	自殺のホットスポット対策研修会の実施	対策研修会の実施回数と参加者(参加機関)数	対策に関わる機関・関係者の意識の向上(具体的な対策実施)	⇒市外からの自殺者の減少
8	関係機関の連携強化との情報共有	秩父地域自殺予防連絡会との連携強化と情報共有	会議開催数と研修会開催数		自殺者の減少 (自殺による死亡率の低下)

現在の課題と今後の方向性

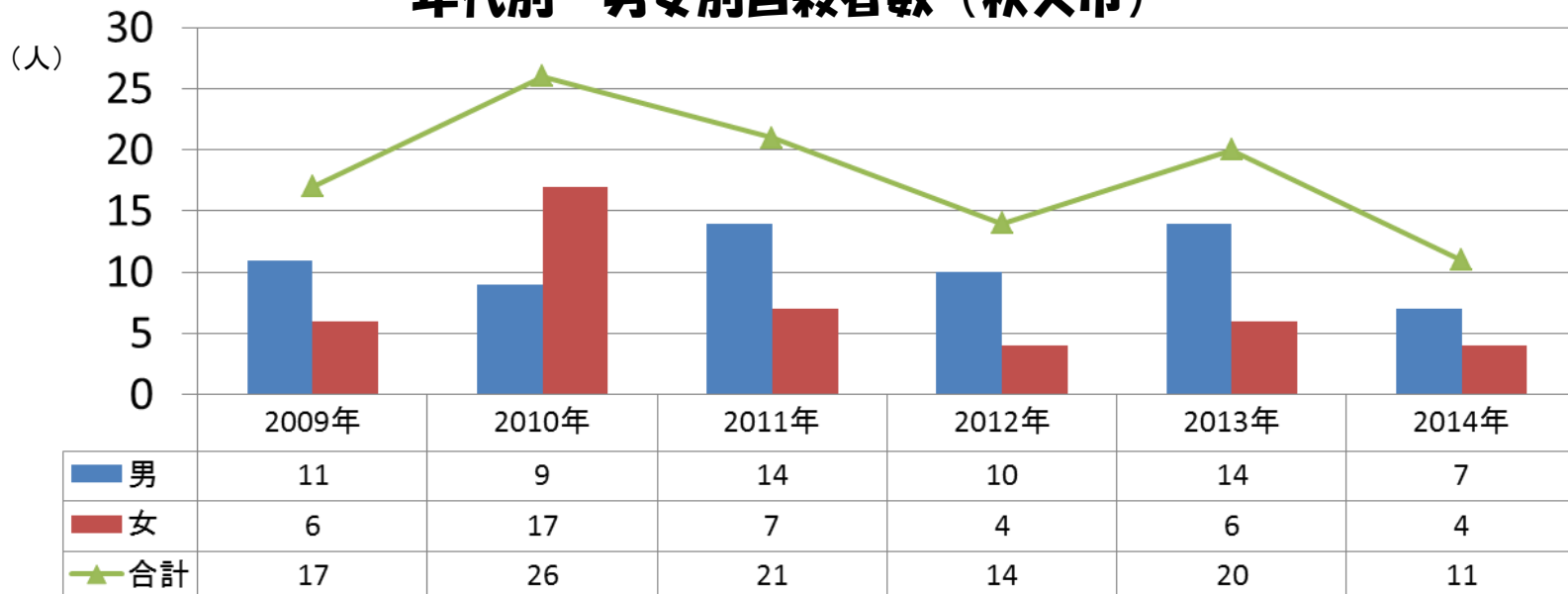
1、セーフコミュニティに取り組んで良かった点

- ・データ分析して、課題を見つけ、自殺予防対策を実施するという仕組みができた
- ・根拠に基づいた取組が大切であることがわかった。
- ・今までよりも、委員や関係機関との繋がりが深まった。

2、現在の变化

- ・2010年に26人だった自殺者が、増減しながら、2014年には11人に減少した。

年代別・男女別自殺者数（秩父市）



現在の課題と今後の方向性

3、新たな課題

- ・40～60歳代男性へのアプローチ方法が少ない。
- ・ホットスポット対策には限界がある。
- ・自死遺族への支援は、対応が難しい。

4、今後の方向性

- ・職場における精神保健対策を充実させる。
- ・地域住民や家族の意識を向上させて、協働体制を強化する。

セーフコミュニティ 自殺予防対策委員会



ご清聴ありがとうございました！